

大源太山山行記録



旭原 P 登山口



山頂より七ツ小屋山



紅葉始まる

目的地	大源太山	期 日	平成21年9月23日 (祝)・曇
山人	笠原正雄、澄子	特 記	11年前、伊香保会合の帰りに登った山にもう一度。

地点名	時刻	記 事
与 板 発	午前 6:50	小雨模様、群馬の方が幾分お天気良さそうなので、十二ヶ岳に向かうと YHC ポストにメモを投函。小出付近では結構な雨降りであった。石打を過ぎると小雨、湯沢では山が見えて来た。遠出を止めて、この山に変更する。
旭原登山口 P	8:25 発	品川、富山ナンバーの2台あり。登山口看板に山頂まで約 3.5 km とある。ポストの届けを記入する。雨は止んだ。
単 管 橋	8:35	杉植林地を経て沢に出る。単管と鉄板で左岸に渡る。
謙信ゆかりの道標	8:40	旭原 P から 0.8 km。右に、シシゴヤノ頭 2.5・蓬峠 5.0・清水峠 6.3 km。直進に大源太山 2.8・清水峠 4.3 km とある。直進する。
右岸へ渡渉	8:55	河原に下りて数メートルの渡渉。トラロープが張ってある。飛び石伝いに渡れば問題ない。渡り終えれば大きな石を乗越えて道標のある登山道となる。急登へ。
休 む	9:25~9:30	樹林で展望の無い急登の途中、左下方が見える尾根に出て休む。
山頂が見えた	9:45	幾分傾斜が緩み、樹間から右前方に薄っすらと山頂が見えた。この後森林限界を過ぎれば、山頂に続く尾根を追うことができる。
下山者と会う	10:30	15分ほど前に山頂を下る人影が見えた。ここでスライドする。富山ナンバーの年配男女3人。「誰も来ない山なのか?」と言う。上山に3時間以上要したようだ。七ツ小屋山方向に黒い雲が流れている。そちらの雨粒が風に飛ばされて来るのだろうか少し雨を感じる。
大源太山頂	10:45	誰も居ない。雨はないが、風が寒い。南側に少し下りて風を避け、カッターシャツと雨具上衣を着て腰を降ろす。350 缶 1 本とイナリ寿司とカップそばで昼食。眼下に清水街道が見える。巻機山の山頂は雲の中だが、ヌクビ沢と井戸尾根は途中までしっかりと目で追える。また、右に朝日岳がガスに霞むが意外と近い。
縦走者が来た	11:50	下山準備を終えると、七ツ小屋方向から品川ナンバー車の若者男2人が上って来た。シシゴヤノ頭経由で4時間掛かったとのことだ。七ツ小屋山手前で200m程笹藪だったが、刈払機がデゴがされていて、道はしっかりしていたと聞く。
下 山 へ	12:00	雲が少し取れて来た。シシゴヤノ頭から足拍子山が見える。今まで見えなかった七ツ小屋山が姿を現した。下り始めてすぐに暖かくなり、雨具、カッターシャツと順に脱ぐ。一部紅葉も始まっている。ナナカマドの実が赤い。
旭 原 P	午後 2:10 着	途中、上山時休んだ所と同じ場所で腰を下ろし、湯を沸かしコーヒーを飲む。ここで後発の男2人に追い抜かれる。そして渡渉点で再び一緒になる。単管橋の手前で枯れた倒木にキノコがびっしりついていて、妻に促されて採取した。帰宅して調べたら、ツキヨタケである。分かん事には手を出さないようにしましょう。土樽岩の湯で入浴。R17 から R291 を進み、大崎で八海山の水を汲んで大和スマート IC から高速道で帰宅する。山谷 PA で山古志のカグラナンバン味噌を買う。

今年は、敬老の日と秋分の日が重なって4~5連休となった。シルバーウィークとの名前が付いた。そして、9月から臨時で勤めたことで4連休である。毎年参加している飯豊の保全作業もこの期間に行われた。しかし与板まつりのため参加できない。

22日は雨降りだったが、この日は何とかかなりそうだった。従って、群馬の山をと思ったが、関越道を進むうち雨が弱まって来た。そこで、何も遠出をしなくとも良い。もう一度と気になっていたこの山に登ることにした。

そして、11年前の記憶は不確かであった。急登との印象はそのままではあるが、合致していたのは渡渉と山頂であった。思っていた以上にいい山だったことを再認識した。